

## 第7回 加茂市立小中学校適正規模等検討委員会 会議録

■ 日 時 令和4年8月29日(月) 13:30~16:15

■ 場 所 加茂市役所5階 全員協議会室

### ■ 出席者

・出席委員 12人 (うち、\*2名オンライン)

遠藤英和委員	滝沢茂秋委員	中村幸一委員	中山勇委員
皆川輝一委員	小畑一二美委員	平野政幸委員	阿部奈穂子委員
亀山弘子委員	小出浩輔委員*	笹川裕子委員	松原啓委員*

・欠席委員 7人

土田秀男委員	茂野芳子委員	中林利恵委員	樋口明宏委員
市村正子委員	高畑結城子委員	目黒悦子委員	

・事務局 7人

加茂市教育委員会

教育長 山川雅巳	庶務課長 草野智文
学校教育課長 阿部一晴	社会教育課長 有本幸雄
スポーツ振興課長 五十嵐卓	学校教育課課長補佐 吉田国義
庶務課課長補佐 長澤敦	

・教育委員(オブザーバー) 3人 (うち、\*2名オンライン)

加茂市教育委員(教育長職務代理) 乙川智子*	加茂市教育委員 田邊俊樹
加茂市教育委員 太田正純*	

■ 傍聴者 1人

### ■ 議 事

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 議事
  - I 将来の児童生徒数(おおまかな推計)について
  - II グループワーク
4. その他
5. 閉会

---

### 1. 開会

□事務局(庶務課 草野課長)

- ・11人の委員の出席をもって、「加茂市立小中学校適正規模等検討委員会設置要綱」第6条第2項により、会議開催の成立を報告します。
- ・なお、小出浩輔委員は、会議の途中（14：00頃）から出席される予定です。

## 2. 遠藤会長挨拶

- ・前回、第6回加茂市立小中学校適正規模等検討委員会では、これまでの話し合いや視察の経験をもとに、グループワークを開催しました。
- ・これからの学習活動の展開、部活動を含む学校生活、安心安全な学校施設、公民館活動との連携、高齢者と子どもの交流、スクールバスの運用、まちづくり、コミュニティー、通いたい通わせたい学校というのは何かを考えたなかでは、おいしい給食、加茂を学ぶ学習時間の工夫、不登校児童生徒が少ない学校づくりなどの声が寄せられました。
- ・また、地域との交流、保小中の交流、子育てサポート、ふるさと愛を育む人づくりの工夫、加茂の未来を考えるまちづくりの展開、更には現状への要望を再整理したり、今後の出生数を考えることが大切だという指摘もいただきました。
- ・この話し合いを通じて、安全安心いう大切な視点、特に子ども、親、大人の顔がわかるという学校の役割とその重要性について整理できたのではないかと思います
- ・また、学校ではコロナ禍を通じて貴重な体験活動の場を奪われたことで、人と人との関わり合いの重要性についてもあらためて気づかされたと思います。
- ・適正規模等を検討していくなかで、委員の皆様から意見交換を重ねたいという声が寄せられましたので、今回はさらなる話し合いの機会を設けることを提案したいと思います。
- ・子どもたち、保護者、地域に必要なことは何かを念頭に、大切なことや見直すべきことといった不易流行を探っていきたいと思います。
- ・加茂市の地域社会が求める学校の姿を学校教育の面、地域社会の面の両面から整理して、目指す子どもの姿を委員ひとりひとりがイメージしていただくこと、また、そのための環境整備の内容を明確にしていくことを目指していきたいと思います。

## 3. 議事

### I 将来の児童生徒数（おおまかな推計）について

#### □事務局（庶務課 長澤課長補佐）

（資料3ページに沿って説明。）

- ・前回のグループワークのなかで、今後の学校運営を考えるうえで将来的な出生数をおさえていくべきであるというご意見をいただいたこともあり、国立社会保障・人口問題研究所が出している数字をもとに、おおまかではありますが、グラフにまとめてみました。
- ・現在、加茂市の年間出生数は100人を切るようになったことは第1回検討委員会でも説明させていただきましたが、人口問題研究所は今後も減少を見込んでおり、推計の幅

はありますが、令和12（2030）年では87人程、令和22（2040）年では67人程を見込んでいます。

- ・現在の児童生徒数とこれを加味しますと、令和12年（2030年）には小学生が626人程、中学生が397人程、さらには令和22年（2040年）には小学生が482人程、中学生が259人程になります。
- ・あくまでも推計ではありますが、令和2（2020）年から令和22（2040）年までの20年間で更に半減するのではないかと考えています。
- ・参考に、国が示している適正規模校にあてはめれば、令和22（2040）年の数字を用いれば、小学校1校で1学年80人、26・7人の3クラス編成となります。
- ・同様に、中学校も1校で1学年86人、28・9人の3クラス編成となります。
- ・人口減少、少子化は加茂市だけではなく全国的な問題ではありますが、そういった情勢のなかでも、将来を担う子どもたちをどう育成いくのか、少数でも輝く教育というもの念頭に置きながら、活発な意見交換をお願いします。

#### □会長

- ・ここまでで質問等はございますか。

#### □委員

- ・出生数の推計や国の基準にあてはめたのは、1校に統合することが前提の流れになっているのでしょうか。

#### □事務局（庶務課 長澤課長補佐）

- ・前回のグループワーク等で、将来的な出生数をおさえたいうえで適正規模を考えることが必要なのではないかとこの意見をいただいたところであり、事務局としておおまかな推計をお示したものです。
- ・参考として、国の基準にあてはめてみたものであり、これをもって統合ありきに引っ張るものではなく、あくまでも話し合いの材料としてお示したものです。

#### □会長

- ・この会議の性格として、少子化に伴う児童生徒数の減少による学校教育の影響を予測することは大前提であり、あくまでも資料の一つとして受け止めてください。

## II グループワーク

#### □事務局（グループワーク進行：学校教育課 阿部課長）

- ・前回のグループワークでは、10年後の加茂市教育環境・学校施設の姿を出し合っていただけ、それをグループごとに活字にまとめたものが、資料5ページと6ページになります。
- ・ただし、これで議論が尽くされたものではないと思いますし、委員さんの意見を述べた状態で終わったかと思います。
- ・また、共通にでてくる文言も多く、グループによって出た意見、出ていなかった意見もありましたので、事務局では活字から単語におとして、それを共通の項目ごとに括ってまとめたものが資料7ページになります。

- ・下からは「学校教育」の視点からみた形であり、元々ある加茂市の学校教育の重点である「自ら考え 心豊かで たくましく生きる ふるさと加茂を愛するこども」を目指して進んでいますが、そのために「確かな学力」（知）、「豊かな心」（徳）、「健やかな体」（体）、「人材育成」（キャリア教育）という4つの柱を掲げています。
- ・委員の皆様からいただいた意見を活字、さらに単語も並べ、「人的環境」と「物的環境」をそれぞれ左側と右側に分けて整理してみました。
- ・一方、上からは「子どもがどのように育って欲しいか」、「10年後の学校はどうあって欲しいか」ということを地域の視点で並べたものです。
- ・そうすると、「学校を中心に地域が活性化して欲しい」、「安心安全で防災の拠点であって欲しい」、「子育ての拠点であって欲しい」、「持続可能な適正規模の学校であって欲しい」、ここは児童生徒数との関係もありますし、加茂市としては財政的な関係もあるかと思いますが、この4つの柱から「地域の中心となり 安全安心で 子育ての拠点となる学校」にまとめられるのではないかと、そこに皆様からの意見を単語にして並べてみたものです。
- ・なお、これを示したことによって、今回のグループワークで一定の意見に引っ張ろうとしているものではありません。
- ・自分のグループで出ていた意見や、他のグループから出でいた意見を共有し、話し合いに詰まったりしたらこれらを参考にしたり、今回のグループワークの材料にしたいと思っています。
- ・答申に向けて、今回はさらにテーマを「学校規模」、「校舎」、「教育内容」、「部活動」に絞って話し合いをお願いします。
- ・グループのなかで1つの意見にまとめることは必要ありませんので、どんどん意見を出していただきたいと思えますし、事務局としては、答申案作成の貴重な資料にしたいと思えます。
- ・流れ
  - 1つ目のテーマ：「学校規模」
    - 全3グループが共通テーマとして、話し合った内容、結果を発表する。
  - 休憩
  - 2つ目のテーマ：「校舎」・「教育内容」・「部活動」
    - 各グループが1つのテーマを選択、話し合った内容、結果を発表する。

※グループ発表 テーマ：「学校規模」

【①グループ】

- ・学校規模というのは、人口減少、少子化だけで考えるのではなく、広い視野で考えるべきではないか。
- ・学校は地域の文化・教育・歴史の拠点であり、簡単に1校にまとめてしまえば終わりということは好ましいことではない。
- ・加茂市全体を考えれば、魅力ある企業や地域をどうしていくのか、優秀な人材が育つ

ような教育に努めていかなければならない。

**【②グループ】**

- ・ 様々な人間関係を育むうえで、クラス替えができる学校規模が良い。
- ・ そのための小中学校の統廃合は、子ども本位で考えればやむを得ないのではないか。
- ・ 統合後は、学びの場としてそれぞれの地域を大切にする姿が描ければ良い。
- ・ そのためには、どこかに統合した学校があったとしても、地域に出向いた学習を通じ、地域の人との関わりを切らない工夫が必要。
- ・ 加茂市では、他市のような小中一貫の義務教育学校や一体型施設を取り入れることは急激な変化、とまどいを生じさせる可能性があり、人口規模も異なることから、馴染まないのではないか。
- ・ 小学校と中学校の連携は大変重要なことであるが、適正規模という面では小学校と中学校は別に考えたい。

**【③グループ】**

- ・ 根底には人口減少、財政的な問題、施設の老朽化があり、大規模な学校には集団行動やクラス替えによって多様な人間関係が形成できる、クラス対抗戦などの競争が可能になる、施設を集約することで設備等も充実しやすい等のメリットがあり、小規模の学校には顔が見えるコミュニティーのなかで子どもの育ちを見ることができる、それによりコミュニティーが活性化するなどのメリットがあることをあらためて整理した。
- ・ 学校の集約はやむを得ないと思うが、いかにして小規模のメリットを存続することができるかということの研究する必要がある。
- ・ また、小学校と中学校では性質が違うため、小学校はこれまでの小学校区を教育のエリアとして考え、中学校は加茂市全体を教育のエリアとして考えた場合、小学校の大規模小規模といった考え方と中学校の大規模小規模といった考え方を分けて考えるべきではないか。

**※グループ発表**

**【①グループ】 テーマ：「教育内容」**

- ・ 加茂の良さや特性に触れて、一旦市外に出たとしても、また加茂に戻ってくるような子どもたちを育てていきたい。
- ・ 例えば、加茂の特性として加茂の方言、歴史として家具、建具、加茂和紙などの伝統技術であり、それらを総合学習で体験できる「加茂学」を取り入れることで、教職員だけでは教えることが難しくても、地域の様々な人達から協力を得て、交流を図ることができる。

**【②グループ】 テーマ：「校舎」**

- ・ 複合的な機能ということ考えたときに、生涯教育のなかで加茂の伝統技術を子どもたちが地域の方々と一緒に学べる環境が良い。
- ・ そのためには、学校とコミュニティーセンターや公民館が一緒になった施設で、コミ

ユニティーセンターや公民館には地域の方々が集って学び、子どもたちとの交流ができるの良い。

- ・防災拠点としての機能としても併せ持ちたいが、立地条件を十分吟味する必要があり、災害時には機能が発揮できる充実した造り、設備等が必要。
- ・子どもたちにとって一番大事な教室は十分な広さを確保し、今後のICT教育に十分対応できる設備が当たり前の環境を整えることが、教職員の意欲向上にも繋がっていく。
- ・また、子どもたちが屋外で活動する場面があるが、然るべきところに日よけを設けることで熱中症の予防を図るなど、子どもたちや教職員のちょっとした目線に注目しながら、専門家を交えて機能的な校舎を造りたい。
- ・トイレの充実を図り、子どもたちの心理的負担を軽減させたい。
- ・地産地消のおいしい給食を提供したい。

### 【③グループ】 テーマ：「教育内容」

- ・ICTは、情報が豊かで早い、グループワークをしやすい、発言や情報を共有しやすい、オンライン授業が可能などといったメリットがある一方、ICTはあくまでも手段であるが、ICTを使うことが目的となっているケースがある、容易に調べて答えが出てしまうこともあることから「考える」機会が減少することが危惧される、対人コミュニケーション能力向上に疑問が残るなどといったデメリットを考慮したうえでICT教育を推進していきたい。
- ・加茂を教材として社会を知る「加茂学」を行ううえで、子どもたちがインプットするだけではなく、アウトプットもできるようトータルコーディネートができる人材が必要。

## ※総評

### □遠藤会長

- ・1つ目のテーマである「学校規模」について、全3グループが話し合いました。
- ・①グループでは、適正規模「等」の部分で、充実した教育の実現に対する方策というものを考えていくべきとの強い思いを感じることができました。
- ・②グループでは、子どもたちの人間関係づくりを重視した規模であって欲しいという願い、学びの場としての地域の大切さ、規模は小中で分けて考えることなど、加茂市に適合しているかという視点を持つことは大事なことだと思います。
- ・③グループでは、これまで話し合ってきたことを基に、ここであらためて大規模か小規模かということ整理することは、最終的な結論を出すときの良い材料になるかと思えます。
- ・2つ目のテーマでは選択方式としました。
- ・「校舎」を選択した②グループでは、災害に対応した配慮が必要という意見やトイレの充実も念頭に入れなければならないという重要な意見がありました。
- ・教室の広さについても、最近ではタブレットを利用するようになり、机から落としてしまうことが見受けられ、これまでよりも少し広く、転落防止装置がついた机の利用

も始まっているところですので、今後はそういった細かなところまで配慮していく必要があると思います。

- ・「教育内容」を選択した①グループと③グループでは、教育内容を通じて人づくりを図ることができるという共通した部分があったと思います。
- ・つまりは、地域の良さを学び、それを生かす活動に繋げることが大事だということだと思います。
- ・ITを活用しながらも、加茂という地域をきちんと捉えていくという教育活動の充実は、これまでの総合学習を通じてさらに充実させていく必要があると思いました。
- ・特別支援に関する合理的な配慮には、バリアフリーといった建物のことだけではなく、人権感覚を持った子どもたちを育てていくという大事な役目があります。
- ・学校には、いじめの問題、不登校の問題を含めた人権感覚を持った教育を行っていくという課題があり、社会の課題でもありますので、そういった点からも教育内容について考えていく必要があるかと思います。

#### 4. その他

##### □事務局（庶務課 草野課長）

- ・今後の予定ですが、第8回の会議を9月30日（金）の午後に、最終の会議を10月末頃に開催したいと考えておりますので、よろしく申し上げます。
- ・7月末に湯沢学園の視察について、新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から断念したところでありますが、県外視察を9月中に実施したいと思っておりますので、近日中にご案内したいと思います。

#### 5. 閉会

##### □事務局（山川教育長）

- ・皆様より貴重な意見をいただき、本当にありがとうございました。